

令和2年11月宮崎県定例県議会

スポーツ振興対策特別委員会会議録

令和2年12月7日

場 所 第4委員会室

令和2年12月7日（月曜日）

午前9時59分開会

教育次長 (教育振興担当)	黒木 貴
教育政策課長	川北 正文
スポーツ振興課長	押川 幸廣

会議に付した案件

○概要説明

教育委員会

1. 今後の競技力向上の考え方について

○協議事項

1. 提言について
2. 次回委員会について
3. その他

出席委員（11人）

委員 長	窪 菌 辰 也
副委員 長	河 野 哲 也
委員	星 原 透
委員	横 田 照 夫
委員	日 高 博 之
委員	日 高 陽 一
委員	脇 谷 のりこ
委員	安 田 厚 生
委員	渡 辺 創
委員	来 住 一 人
委員	囗 師 博 規

欠席委員（なし）

委員外議員（なし）

説明のため出席した者

教育委員会

教 育 長	日 隈 俊 郎
副 教 育 長	黒 木 淳 一 郎
教 育 次 長 (教育政策担当)	工 藤 康 成

事務局職員出席者

政策調査課主任主事	田 中 孝 樹
政策調査課主査	持 永 展 孝

○窪菌委員長 それでは、ただいまからスポーツ振興対策特別委員会を開会いたします。

まず、委員席の決定についてであります。ただいま御着席のとおりで決定してよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○窪菌委員長 それでは、そのように決定いたします。

本日の委員会の日程についてであります。お手元に配付の日程案を御覧ください。

本日は、教育委員会から今後の競技力向上の考え方について説明をいただきます。その後、報告書に係る提言及び次回委員会について御協議いただきたいと思いますと思いますが、このように取り計らってよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○窪菌委員長 それでは、そのように決定いたします。

では、執行部入室のため、暫時休憩いたします。

午前10時0分休憩

午前10時1分再開

○窪菌委員長 それでは、委員会を再開いたします。

本日は、教育委員会においでいただきました。

執行部の皆さんの紹介につきましては、お手元に配付の出席者配席表にかえさせていただきたいと存じます。

それでは、概要説明をお願いいたします。

○日隈教育長 おはようございます。教育委員会でございます。本日は、どうぞよろしく願いいたします。座って説明いたします。

それでは、本日御報告させていただきます項目についてであります。お手元にお配りしておりますスポーツ振興対策特別委員会資料の、表紙の下の方に目次として掲げておりますけれども、本日は特別委員会から御指示のありました、今後の競技力向上の考え方について御説明させていただきます。

内容につきましては、担当課長から説明いたします。本日は、どうぞよろしく願いいたします。

○押川スポーツ振興課長 スポーツ振興課から、今後の競技力向上の考え方につきまして説明させていただきます。

それでは、資料の1ページをお開きください。

まず1、今後の強化事業や環境整備等についてであります。

(1)の基本方針としまして、黒ボツが3つございますが、1つ目、天皇杯獲得を目指し、競技力向上対策本部を設置し、宮崎県競技力向上基本計画に基づき、事業を推進すること。

2つ目ですけれども、競技団体等と連携して、各事業に取り組むこと。

3つ目としまして、宮崎開催の本大会までの期間を育成期、充実期、躍進期に区分し、期間にあった対策を講じることとしております。

しかし、御案内のとおり、本県での大会開催が2027年に1年延期となりましたことから、今後の本部会議にて、推進計画や目標順位等につ

いて見直しを行う予定としております。

続きまして、(2)の競技力向上対策の4本柱についてであります。

本県の競技力向上に向けた課題を解決し、取り巻く環境に対応するため、そこがございます4つの柱を現在設定しております。

①推進体制の整備・充実、②選手の発掘・育成・強化、③指導体制の充実・強化、④環境条件の整備の4本の柱を立て方策を講じているところでございます。

続きまして、2ページ、(3)練習環境（施設）の整備についてであります。

競技力向上のための練習環境面の整備につきましては、各競技団体の代表選手やチームが天皇杯獲得に向けた強化練習に、効率的に取り組むことができるよう、必要な練習施設の整備を行っていくこととしております。

①の基本計画としましては、練習施設につきましては、学校体育施設や公共施設等の既存施設の活用を基本としております。しかしながら、競技の状況に応じまして、下にありますように、A、B、C、Dの4つに各競技を分類しております。

Aにつきましては、学校体育施設や公共施設等の既存施設の活用が可能な競技。

Bにつきましては、日常練習に必要となる施設が整備されていない競技。

Cにつきましては、既存施設はあるものの、規格等が基準に満たない競技。

Dにつきましては、老朽化が著しい競技としております。

②の整備の考え方につきましては、宮崎大会での競技得点の増加など、施設整備の効果が見込まれるものにつきまして、重点的に整備を行うこととしております。

③の整備の内容につきましては、現段階で整備計画が決定している競技についてのみ表記をしております。

表の一番右の新設整備は、分類でいいますとBに当たります、日常練習に必要となる施設が整備されていない競技であります。

まず、水球プールにつきましては、県内唯一、水球部が活動しております宮崎工業高校に整備を行うこととしております。

今年度、地盤調査、基本設計、実施設計の業務委託を実施し、令和3年度から4年度にかけて施設整備を行う計画としております。

なお、今回整備される水球プールは、部活動だけではなく、授業においても活用していくこととしております。

続きまして、アーチェリー場につきましては、県内唯一、アーチェリー部が活動しております延岡星雲高校に整備を行うこととしており、今年度、実施設計の事業委託と更衣室の整備を実施し、令和3年度に射場及び的場の競技施設の整備を行う計画としております。

また、アーチェリー競技につきましては、障がい者スポーツ大会の競技種目でもありますことから、障がいのある競技者の利用を想定しまして、障がい者の競技大会に対応した距離——障がい者の競技大会では、50メートル、30メートル、18メートルという標的の整備が必要となりますことから、そういった標的の整備、また、多目的トイレや更衣室から競技施設までのスロープの設置を計画しております。

続きまして、左側の既存施設につきましてはですが、Cの既存施設はあるものの規格等が基準に満たない競技、また、Dの老朽化が著しい競技であります。

まず、自転車競技場の改修につきましては、

国民スポーツ大会の大会会場となります、県総合運動公園の自転車競技場の改修を行うものであります。1年でも早く前倒しを行い、改修を行うことで地の利を生かし、大会本番の環境での競技力の強化を図るものであります。

自転車競技場は、第1回の宮崎国体開催前であり昭和52年に整備された施設であります。整備から44年が経過しております。

走路の劣化に加えまして、競技場及び管理棟の劣化も著しいことから、抜本的な老朽化対策を行う必要があります。

また、国民スポーツ大会の会場としての競技施設の基準を満たすための改修もあわせて行う必要があります。

今年度は、老朽化対策を含めました施設改修を行うための基本計画としまして、対策や改修の手法を検討し、コスト比較を行うための業務委託を実施しております。

また、令和3年度に実施計画、令和4年度から最大3年程度の期間で改修を行う計画としております。

続きまして、バスケット床改修につきましてはでございますけれども、県立学校の老朽化対策の中で、競技力強化指定校の練習環境整備につながる施設改修などを、国民スポーツ大会に向け重点的に実施していくものであります。

バスケットボール男子、女子の競技力強化指定校であります小林高校の現体育館と旧体育館、旧体育館は、現小林こすもす支援学校体育館となっておりますけれども、この2つの体育館につきまして、老朽化した床の張り替え、また、規格に合致していないバスケットゴールの改修などを行うこととしております。

今年度、両体育館の実実施設計の委託業務と旧体育館の改修を実施しており、令和3年度に現

体育館の改修を行う計画としております。

いずれの施設も、整備後は各競技団体の拠点施設としまして、天皇杯獲得に向けたジュニアから成年も含めた選手の育成・強化に活用してまいります。

なお、今後につきましては、大会会場を練習の拠点施設とする競技もありますことから、大会会場地の選定状況などを考慮しながら、練習環境の整備につきまして進めてまいりたいと考えております。

（4）特殊施設、競技用具についてでございますが、馬術競技の馬、また、ボート競技の漕艇、陸上競技の棒高跳び用の支柱などの整備を行っております。今後も整備効果の見込まれるものにつきまして、重点的に整備を行っていく予定としております。

また、資料にはございませんが、スポーツ医・科学サポートの充実にも力を入れ、選手が身体面や精神面において安心して最大限のパフォーマンスを発揮することができますよう、医師や薬剤師、トレーナー等と連携し、コンディショニングサポート事業にも取り組んでいるところでございます。

続きまして、3ページを御覧ください。

2、宮崎ワールドアスリート発掘・育成事業の概要と現状についてであります。

宮崎大会の開催時に選手となる小中学生でありますジュニア層の強化が重要であると考えておりますことから、国体はもちろんのこと、オリンピック等の国際大会でも活躍できるジュニア選手の発掘・育成を目指しまして、「世界へはばたけ！宮崎ワールドアスリート発掘・育成プロジェクト」を実施しております。

本事業は、オーディションプログラム、育成プログラム、パスウェイプログラムの3つのプ

ログラムで構成しております。

オーディションプログラムにつきましては、例年、県内全域から多くの児童が応募・参加しております。

今年度の第6期生のオーディションには、小学校4年生が104名、5年生が32名、合計136名が参加をいたしました。

四角囲みの①オーディションプログラムとして、書類選考の1次オーディションと、体力運動能力テスト等の2次オーディションを例年実施しておりましたが、本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、申し込みのあった児童全員を対象に、2次オーディションのみで選考としたところでございます。

②育成プログラムにつきましては、オーディションを通過した体力・運動能力に優れた小中学生をアスリート生として、各種プログラムを月2回程度の割合で実施しております。

特に、能力開発プログラムにおいては、コーディネーショントレーニングやメンタルトレーニング、栄養学等を総合的に学び、アスリート生は、トップアスリートへと成長しているところであります。

さらに、アスリート生は、②育成プログラムのポツの2つ目にありますけれども、競技種目体験プログラムを受講した後、③にありますパスウェイプログラムにおきまして、競技種目適性テストとなりますトライアウトを受け、これまで自分が取り組んできた競技を続けるのか、また、新しい競技に転向し、チャレンジしていくのかを自分で選択していくこととなります。

4ページをお開きください。

現在は、①にありますように、小学校5年生から中学校3年生までの125名がアスリート生として受講しております。

また、②にありますとおり、令和元年度までに49名の修了生を輩出しております。この修了生のうち、(7)にありますとおり、第1回修了生で9名、第2回修了生で10名が本県の強化指定校に進学しております。

5ページをお開きください。

修了生の大会や代表候補等の状況を記載しております。

令和元年度の下から4段目、都城工業高校の自転車競技の選手が17歳以下の選手が参加しますJOCジュニアオリンピックカップ自転車競技大会におきまして、全国優勝するなど、少しずつ成果も見え始めております。

ちなみに、この選手は、中学校を卒業する際に、競技を転向した選手であり、この事業の目的の一つを体現してくれているところでございます。

そのほかにも、ウエイトリフティング競技に転向した選手の活躍もあるなど、それぞれの選手のこれからが楽しみであります。

本事業は、選手の可能性を最大限広げるとともに、スポーツを通して本県に貢献しようとする意識を高めることにも取り組んでおりますことから、今後もプログラムの充実に努めてまいりたいと考えております。

7ページをお開きください。続きまして、未普及競技の状況につきまして説明をいたします。

資料上段の表にありますとおり、国体正式競技全41競技のうち、中学校に部活動がない競技の中で、特に本県がジュニア世代の普及・強化を図っていきたいと考えております16競技を、本県の未普及競技として定義をしております。

その16競技につきましては、水球、ボート、ホッケー、レスリング、セーリング、ウエイトリフティング、自転車、馬術、フェンシング、

ライフル射撃、スポーツクライミング、カヌー、アーチェリー、銃剣道、なぎなた、ボウリングの16競技でございます。

この資料には、記載はしておりませんが、水泳の飛び込み、また、アーティステックスイミングにつきましては、県内に練習環境もなく、現在、選手がほとんどいないことから、選手を発掘することからスタートし、本県大会に出場できるレベルまで育成していくことを目標にしたいと考えております。

また、水泳のオープンウォータースイミングや体操のトランポリンは、競泳や体操競技を強化することで、この種目の強化も補完していく予定であります。

また、クレール射撃、トライアスロンは、少年の部が実施されない競技であります。なお、クレール射撃は、隔年開催競技であり、本県での大会では実施されない予定であります。

さらに、冬季競技のスケートやアイスホッケーは、本大会と時期も開催県も切り離して実施されており、第81回大会も本県以外の県で開催される予定であります。

本県での開催ではないことや、練習環境等の課題も多いことから、本県大会開催に特化した強化ではなく、毎年実施しております競技団体のサポートを行いながら、強化を行っていく予定としております。

以上の競技につきましては、ここまで説明をしました理由等によりまして、本県大会での入賞を目指すことを目的とした普及・強化を図っていく競技とは別に、その育成に取り組んでいく予定としております。

資料7ページの(1)国体における総得点に占める未普及競技の獲得点数・割合の推移と天皇杯獲得県と本県の比較についてであります。

一番下の表を御覧ください。

天皇杯獲得都県と本県の欄を見ていただきますと、過去3年間の天皇杯獲得都県における総得点のうち、未普及競技が獲得した得点の割合につきましては、36.8%、48.1%、35.3%となっております。

本県につきましては、そこにありますとおり17.2%、15.3%、15.0%であり、今後、天皇杯を目指す本県にとりまして、未普及競技の育成・強化が非常に重要であることが分かるかと思えます。

また、中ほどの競技別の表でも分かりますとおり、本県におきましてウエイトリフティング競技やカヌー競技は、毎年コンスタントに得点を獲得しておりますが、全ての競技において競技力を高め、コンスタントに得点を獲得し、本県開催時には、天皇杯獲得県レベルの得点となるよう目標をしっかりと設定し、強化に取り組んでまいります。

8ページを御覧ください。

この表は、現在の普及の状況としまして、令和元年度の各競技団体の選手及び指導者の人数であります。

選手の人数は、競技団体ヒアリング時の登録数であります。また、選手の人数につきましては、県スポーツ協会公認指導者登録数であります。

この表を見ますと、レスリング以外のほとんどの競技におきまして、小中学生の競技人口が極めて少なく、ジュニア層の選手発掘・育成が今後の課題であることが明確であります。

なお、銃剣道の一般の人数につきましては、自衛隊関係の方々的人数がほぼそのまま登録人数となっておりますので、他の競技より突出して多くなっております。

続きまして、9ページのA3の資料を御覧ください。

競技名の右側の「ジュニアクラブ等」の状況についてでございますが、ウエイトリフティングと銃剣道以外につきましては、クラブにおいて定期的に活動している状況でございます。

特に、カヌー、ボート、自転車につきましては、九州大会以上の大会で優勝や入賞するなど実績を残し、活躍している選手がおります。

他の競技におきましても、日常的に練習に取り組んでおられます。

また、昨年の茨城国体では、成年の部も含めまして、レスリング、カヌー、自転車、ウエイトリフティング、ライフル射撃、セーリング、馬術の競技で8位以内に入賞した種目があり、それぞれ競技得点を獲得しております。

競技得点につきましては、各競技で8位以内に入賞しますと、個人競技で1位が8点、団体競技につきましては、競技人数により異なりますが、8人以上の競技で1位が64点を獲得することとなります。

なお、これらの競技得点と、ブロック大会に参加することで、1種目10点、最大400点の参加得点を合わせた合計点数で男女総合成績、女子総合成績となりまして、第1位の都道府県にそれぞれ天皇杯、皇后杯が授与されることとなります。

資料の中央少し右の、県内の主な指導者の縦の列を御覧ください。

県内の主な指導者として、ジュニアと少年や成年、また、それぞれのカテゴリーをつなぐ各競技の中核となる高校の先生方を中心に記載をしております。

ほとんどの競技の指導者が、高校の強化指定校や有力校の顧問であり、それぞれ高い指導力

をお持ちの指導者であります。

選手の人数の資料でも触れましたが、銃剣道につきましては、自衛隊関係の方々を中心に取組まれている競技であります。

今後につきましては、陸上自衛隊都城駐屯地の方々と、少年競技の選手をどのように育成していくかということを含めまして、連携を深めてまいりたいと考えております。

主な指導者の右側の列を見ていただきますと、未普及競技の普及・強化の施策としまして、今年度より実施しております、未普及競技選手育成事業、通称、ひむかサンライズプロジェクトの実施主体等を記載をしております。

この事業につきましては、小中学生選手を対象に、強化練習会やオリンピック等の講習会等を行い、普及・強化を図るものでございます。

各競技の実施主体が、御覧のとおり、競技団体だけではなく、レスリングやカヌー、自転車では、総合型地域スポーツクラブ、ホッケーや水球では、民間クラブとなっております、文字通り、官民一体となり、競技力向上に取り組むことができている事業となっております。

なお、スポーツライミングの事業対象地域が、宮崎市、木城町、日南市、ほかとなっておりますが、これは、山岳・スポーツライミング連盟としまして、県下全域で普及強化を図っていく計画を立てているためでございます。

今後は、宮崎大会開催時に、各競技、各種別の中心選手となります小学校2年生から小学校5年生をターゲットエイジとして、有望選手の強化を図っていく事業や、女性アスリートの活動を多面的に支援する事業等を、これまでの本県の弱点を克服するための事業を行ってまいります。

さらに、成年競技の中心選手として、活躍が

期待をされます競技実績のある社会人アスリート等を確保するための事業にも計画的に取り組んでまいります。

天皇杯獲得という大きな目標の達成とともに、大会後のレガシーをしっかりと生み出していきますよう、全ての県民の皆様に応援していただける「チームみやぎき」の育成・強化にしっかりと取り組んでまいります。

説明は以上でございます。

○窪菌委員長 それでは、執行部の説明が終わりました。御意見、質疑がございましたら、御発言をお願いいたします。

○日高陽一委員 8ページの、未普及競技の選手が少ないということですが、選手の募集とかは、何か行っているのでしょうか。

○押川スポーツ振興課長 現在、各競技団体で行っている状況ですので、一つの窓口で、例えば、スポーツ協会のホームページ等を活用して募集を行う、といったこともやっていかなければいけないと考えております。今後、スポーツ協会とも連携をしていきたいと考えているところでございます。

○日高陽一委員 僕の子供が今、小学校6年生と中学生なんですけれども、例えば野球をやっている男の子でも、エースで4番とすごい活躍している男の子たちが、燃え尽き症候群で、中学校になったら部活はやらない、という子たちも結構いるんですね。スポーツ万能で、ほかの競技に行っても伸びるだろうなという子たちがたくさんいるので、そういう子たちをぜひ発掘していただきたいなと思うんですけれども、そういう取組は何かあるのでしょうか。

○押川スポーツ振興課長 スポーツ少年団等、小学生の所属するクラブの指導者等とも同じ思いで、国民スポーツ大会に向けた選手の育成、

発掘、強化をやっていくことが必要になると思っております。スポーツ協会等でスポーツ少年団の研修会、講習会等も行われておりますので、そういった場を十分に活用しながら、指導者の皆様に、いろんな競技があることや、国民スポーツ大会で天皇杯を獲得するためには、子供たちの力が必要だということを、しっかりと訴えながら、競技の転向等も含めて、子供たちが活躍できるような体制を整えてまいりたいと考えております。

○日高陽一委員 ぜひ取り組んでいただきたいと思っております。ありがとうございます。

先日、現地調査で延岡星雲高校に行ったときに、委員から、「未普及競技」だとネーミング的になかなか子供を入りにくい、という話もありました。未普及競技という名称を全面に出すよりも、先ほど説明のあった「ひむかサンライズプロジェクト事業」という、本当にいいネーミングだなと思うんですけれども、こういう事業名をどんと前に出していくほうが、子供たちにとって魅力的で入っていきやすいんじゃないかなと思いますので、ぜひそういう形をとっていただけたらなと思います。

○押川スポーツ振興課長 ありがとうございます。先週の常任委員会におきましても同様の御意見をいただきましたので、今後、課としましても、しっかりと検討しまして、今後の本部会議におきまして、その競技の呼び方、名称等につきましても、前向きに取り組んでいただけるような名称に変更を検討してまいりたいと考えております。

○日高博之委員 国民スポーツ大会が2027年です。天皇杯を取るという目標があって、指導者とかは、競技団体ごとに頑張って優勝を目指そうとしていると思うんですけれども、当の本

人たち——子供たちは、何があるんだろうね、ぐらいの認識しかないですね。

僕らが子供のころは、子供たちが、私は何年後、何々の競技に出て日本一になるんだ、とか思ってたんですけれども、今の子供は、何があるんだろう、国体はいつあるんだろう、それでどうなるんだろう、というぐらいの認識しかない。幾ら指導者が頑張っても、やる本人が、子供とはいえ、やはりそういった意識を強く持っておかないと、競技力向上の芯の部分には、はまっていかないんじゃないかな、と思うんです。

私もスポーツ少年団の大会とかで開会式に行きまして、国体の選手になって、宮崎県を代表するようになってくれ、と言いますけれども、でも、子供は基本的に、何のことかわかっていないんですね。

そういった意識がまだないんじゃないかと思うんです。子供の目標を決めることは、練習を積んだり、トレーニングするよりも非常に大事なところだと思うんですけれども、その辺はどうなんでしょうか。

○押川スポーツ振興課長 ありがとうございます。大変、大切なポイントだと思います。

現在、今後の国体の選手として優秀だと思われる中学生以上の選手につきましては、各競技団体から国体候補選手という指定をしております。それを、ターゲット世代であります小学生あたりから指定をして、そういった意識を持ってもらう取り組みが必要かと思っておりますので、検討してまいりたいと考えております。

○日高博之委員 これは、個人競技もですけれども、団体競技でも大事ですよ。県内全域で考えれば、例えば、ソフトボールでも、小学校、中学校では別々のチームだったけれども、みんな

なが集まれば上位に行くことが想定できるんです。

ただ、先ほど言ったように、子供が何を目指すのかというのが、はっきりしていかない。基本的なこととして、指導者に優勝する気があるのかないのか、というのがありますが、それでも、意識の高い子は小学校の段階から——小学校の2年生、3年生ぐらいから、意識を持っているんですよね。勉強もしながら、競技で国体で優勝することも目指してやっていくというのが、もともとの文武両道の精神で、勉強だけすればいい、スポーツだけすればいいではない。だけど、そこがもやっとしたままで、将来何になるとか、どうするという夢を持っているのではなくて、言ってみれば、漠然とやらされている。やらされるのか、自分が率先してやるのは当然違う。

この意識が変わって、自分たちで頑張ろうという意識があれば、そんなに補強しなくても、おのずと成績は上がると思うんですよね。もう意識ですよ、意識。

それは結構難しいと思うんですけれども、これは前の前のスポーツ振興課長のときから、同じ議論をしています。スポーツ少年団と連携して——でもスポーツ少年団は、学校教育じゃないんですよね。別枠だから。スポーツ少年団の親分はこちらにいますけれども、そこを何とか切り開いていかざるを得ないんじゃないですかね。

○押川スポーツ振興課長 委員がおっしゃるとおりでして、スポーツ少年団等の指導者と思いを一つにして、子供たちの育成強化を図っていくことはすごく重要であります。

ですから、現段階で使える言葉としては、連携という言葉しか使えないと思うんですけれ

ども、その連携の仕方につきましてもしっかりと——スポーツ協会がスポーツ少年団を所管しておりますので、スポーツ協会と確実に連携して、私たちの思いを一人一人の指導者に届けながら、子供たちをきちっと育てていくという思いを持ってもらう、目標を持ってもらう、といった取組をしていかなければいけないとは考えております。

○日高博之委員 前の常任委員会的时候にもちょっと言わせてもらったんですけども、巨人と違ってソフトバンクが強いのは、選手の育成ができていますよね。高校生をとって、自分たちで鍛え上げて、世に出すということができています。そこで何にお金をかけているかというと、コーチとか、トレーナーとかにかけているんですね。だから、天皇杯を目指して底上げをするわけですから、今の人員でやれなければ、ちょっと人員を増やすといったことにも、本格的に目に見える形で取り組む必要もあると思います。そこが、ほかの県との差だと思うんですよね。差をつくるには育成、育成するためには指導者、ここに重点を置く。そういうことだと私は思うんですよね。

○押川スポーツ振興課長 貴重な御提言ありがとうございます。

現在、スポーツ振興課の中でも競技スポーツ担当が競技力向上を担当しておりますが、スポーツ少年団については生涯スポーツが担当しております。担当も分かれていますけれども、そういったところを含めて、今後、軸をしっかりと持ちながら、どうやってスポーツ少年団、中高生の競技力向上、それから、成年へつなげるかという組織づくりについても検討を早急にしてまいりたいと考えております。

○日高博之委員 組織づくりは分かるんですけれ

れども、人員がいなくても厳しいだけです、基本的に。だから、そこら辺のプロフェッショナルみたいな方を国体に向けて雇用するとかですね。むやみに雇用するわけではなくて。国体優勝を目指すわけですから、そのぐらい思い切ったことやらないと厳しいという話をしているわけです。

今までできていないものが、今いる人員でできるわけないんですから、そういう指導者を掘り起こして、雇用して、がちとつなげて、宮崎のスポーツの形をつくっていくことをぜひお願いしたい。

○押川スポーツ振興課長 現在、各競技団体におきまして、チームアドバイザー事業という事業をやっています、全国でもトップレベルにある指導者を、単年度ではなくて複数年度で、本県のチーム強化、選手強化のために定期的に本県に来ていただいて、選手育成を行っております。そういったものも含めまして、今後の競技力向上の体制をしっかりと整備をしていきたいと考えております。

○日高博之委員 それは前から聞いていますので分かるんですけれども。それを点でやるよりも、ある程度マンツーマンのような形でやらないと身につかないと思うんですよね。そういう人たちは、宮崎県じゃなくてもほかの県でも、どこそこ行きますよ。今度国体があるところに行って、育成をしていきますから。

もう基本から、ゼロから育て上げるんですよ。これやっている都道府県はどこにもないですよ。国体を機に、これを宮崎はやる必要があっちゃんないかと。そういう指導者は、集められないことはないと思いますよ。60過ぎて定年退職した指導者が、私立でも県立でも、いろんな部活動関係で県内に結構いるわけですから。そんな方

をもう一回雇い直してから、その人たちのところでどんどん鍛えてやれば良いと思うんです。

答弁はいいです。よろしくお願ひします。

○横田委員 練習環境整備についてお尋ねしたいんですけれども、先日、この委員会で小林高校のウエイトリフティングの練習施設を見に行かせていただいたんですけれども、小林高校のウエイトリフティングは、強化指定校になっているんですよね。

○押川スポーツ振興課長 強化指定校でございます。

○横田委員 その練習場を見せていただいたんですけれども、ちょっとかわいそうなぐらいな状況だなと思ったんです。その前に、日章学園高校に行つてすごい施設を見て、その格差があったから、特にそう感じたのかもしれませんが、小林高校のウエイトリフティング部の練習施設の改修は予定とかに入っているんでしょうか。

○押川スポーツ振興課長 現在、ウエイトリフティング競技の強化指定校は、小林高校と小林秀峰高校でございます。現在、競技団体と練習の拠点施設として、どこを整備するかを話し合っております。その中で、ウエイトリフティング競技としては、県の総合運動公園の合宿場横にあります体育館、ここのトレーニング場を拠点施設として整備をしてほしいという話を受けております。ですから、まずはそこを整備をしていきたいと考えております。

なお、どうしても練習用具や備品等につきましては、日常的な練習に必要なになってくると思いますので、そういったところにつきましては、各競技団体と話し合いをしながら小林高校、小林秀峰高校にも整備をしてまいりたいと考えているところでございます。

○横田委員 拠点施設は小林高校、小林秀峰高校からも距離的に遠いわけですが、そこも含めて競技の中で運動公園の中に整備してほしいということになっているわけですね。

○押川スポーツ振興課長 協会として、練習拠点施設として、県総合運動公園の体育館を、ということで受けておりますので、そういった方向で現在考えているところでございます。

○横田委員 バーベルというんですかね、それを上げて、落としたときにすごい音がするので、周りにも非常に気を使わないといけない、といった話も聞いたものですから、それが解消できるような改修だけでもできないのかなと思ったんですけれども、難しいんですかね。

○押川スポーツ振興課長 現在のところ、全く施設の整備ができていない競技もございまして、優先順位をつけながら、こういった整備ができるかということについては、学校とも相談をさせていただければと考えております。

○横田委員 ワールドアスリート発掘・育成事業ですけれども、修了生49名のうち強化指定校に進学した数が19名ということですが、あとの30名はどのような学校に進学したんでしょうか。

○押川スポーツ振興課長 その他の生徒につきましては、それぞれ地元の、強化指定校ではない高校に進学をし、競技を続けたり、もしくは競技を転向したりと、いろんな場面が出ているところでございます。

○横田委員 この育成事業の目的が、体力・運動能力に優れた小学生を選考して、天皇杯獲得に向けて育成していくということだと思っておりますけれども、ということは、その修了生は、すごく能力のある子だと思えますよね。その子たちの進学先が、地元か地元じゃないところかというのは非常に難しい部分だと思えますけれども、

せつかくそういう能力があつて修了までしてくれた子がばらばらになると、競技力向上につなげるのは難しいんじゃないかなと思えますけれども。例えば、修了した子に、できたら強化校に行かないか、といった勧誘とかはできないものなんでしょうか。

○押川スポーツ振興課長 いろいろな競技の体験プログラム等もやっております、それぞれの競技団体から声をかけながら、強化指定校等への進学等についても声はかけさせていただいているんですけれども、最終的にはその生徒の目標、将来設計の目標等もありますので、全ての選手が強化指定校に進学をしていない状況はございます。また、下宿等が伴い、どうしても通えないという場合もありますので、そういった経済的な負担という部分もあると聞いております。

ただ、地元の学校に進学して、それぞれ部活動等を通して競技を続けている選手は多いですので、特に個人競技をやっている選手については、成年選手として本県に貢献できる選手として成長していただけるといいかなと思っております。各競技においては、選抜選手による強化練習会等も行っておりますので、そういったところで補完ができればと考えております。

○図師委員 2つほど教えていただきたいんですが、未普及競技に限らないんですけれども、今後、小学生、中学生の競技力向上のために、練習量や試合量を増やしていくことになろうと思えますが、例えば、練習をすればするほど、大会をすればするほど、自己負担額が増加する競技がありますよね。例えば、ライフル、ボウリング、スポーツクライミングでは、練習場は個人ジムになっていますから、毎回そこで使用料とかを払いながら行うことになるので、負担

が発生していると思います。どの競技でも、自分で使う道具や、練習場にかかる費用の自己負担はやむを得ないと思うんですが、例えば、ボウリングとかになると、1ゲームで、多分会員でも200円とか300円とかかかります。それが10ゲーム、20ゲームとなれば、それだけどんどん費用負担が発生してくる。ライフルも1発打てば何百円とかいう話も聞いたことがありますし、その負担が大きいがゆえに、競技者が増えないというところもあるかと思うんですが、何かそういう面の対策というのは考えていらっしゃいますか。

○押川スポーツ振興課長 強化をしていくために、いろんな強化費を各競技団体のほうに支出しておりますけれども、現在の支出のほとんどが遠征と、また大会参加に伴う旅費、宿泊費が主になっております。

ただ、今後は消耗品に係る部分も若干考えていかなければ、各競技団体において、強化がなかなかできない部分もあるかと感じておりますので、そういったところも検討をさせていただければと考えております。

消耗品につきまして、どの程度、自己負担を抑えることができるかというのは、なかなか難しいところですが、少しでも選手の皆さんがやる気になっていただけるような予算配分、また強化費の使用の仕方については検討していきたいと考えております。

○図師委員 先ほど横田委員もお話された内容なんですが、せっかくワールドアスリート発掘・育成事業でいい選手を見つけ、育成していくんですが、結局、高校、大学、社会人の段階で県外に行ってしまう方が多いかと思います。私の地元でいうと、ラグビーが盛んで、中学生まではすごく育成が順調なんですが、高校進学で

県外に行ってしまう。よりよい環境を求めて、高鍋高校に行かず県外に行く子も増えてきているんですね。結局大学でも宮崎に帰ってくることもなく、地元ではないところに就職していく子が、この育成選手の中にも多数出てこようかと思うんですが、さっき答弁で言われたのかもしれないんですが、その子たちに、違う県外の高校、大学、社会人になったとしても、宮崎県代表なんですよ、代表になれるんですよということを意識づけするために、定期的に宮崎で強化合宿をすとか、集まる機会をつくるといった取組は今後されていく予定はありますか。

○押川スポーツ振興課長 現在、国民体育大会におきましては、ふるさと選手登録制度というのがございます。出身高校が、どこの都道府県かによって登録ができるというものですので、宮崎県内の高校を卒業すれば、ふるさと選手として県外の選手を登録することができるんですけれども、中学校から高校に進学する際に県外に出てしまいますと、現在の登録制度では難しい状況がございます。

ただ、現在、日本スポーツ協会のほうでは、小学校、中学校で在籍した都道府県で登録することも可能となっているようですので、そういった制度を活用しながら、また、ふるさと選手が定期的に本県に帰ってきて練習できるような旅費等についても、現在もう事業化しておりますが、さらにプラスしていきながら、そういった選手が本県の選手として活躍していただけるように行っていきたいと考えております。

○図師委員 その取組はぜひ続けていただきたいですし、今の小中高校生に、宮崎代表で出してもらえるんですよ、という意識づけを常にしてもらうためにも、定期的に合宿なり大会を開催していただきたいです。その子たち、その選手

たちにとっては、多分、2巡目の国スポは通過点に過ぎないと思うんですが、ふるさとに貢献してくださいというのは、今のうちから、そういう取組をぜひ続けていただきたいと思います。

○脇谷委員 昨日、おととい、イオンで開催された宮崎スポーツフェスタに伺ってきたんですけども、すごくよかったと思います。小さい子供たちが、いろんなおもしろい競技があると集まっていて、とてもにぎやかだったなと思っているんですけども、レスリングは未普及競技なんですか。

○押川スポーツ振興課長 中学校に部活動がない競技を未普及競技と定義をさせていただいております。

ただ、レスリング競技につきましては、実は現在、串間市の串間中学校で部活動をつくろうという動きがございますので、そういったところについては、いい形ができつつあるのではないかなとも考えているところです。

○脇谷委員 レスリングとか、皆さんが集まっていますごく注目を浴びていたのので、これはいいなと思っていました。フェンシングも、子供たちにおもしろさを伝えるためのちょっとしたコーナーを作っていたらいいなと思っていました。子供たちに、魅力的なスポーツだよとアピールしていらっしゃる協会はいいんですけども、見てみますと、ほかの協会というか、子供たちにとっては聞いたこともないようなスポーツをアピールする協会にも声をかけられていたのかどうかというのを感じるんです。協会ごとに、未普及競技だから、別にいいやみたいな感じで、意識のレベルというか、熱量が全然違うんじゃないかと思ったんですが、どう感じられるでしょうか。

○押川スポーツ振興課長 この未普及競技の各

競技団体の皆さんは、どうしても少ない人数で運営等をやられております。そうしますと、どうしてもそういったイベントに出向くときにも会員が少ない、役員になる方々が少ないというような状況もありまして、なかなか出ていけないということのも事実であります。

ですから、そういったところも考えまして、先ほども申しましたが、スポーツ協会等のホームページを通して、いろんな競技団体がどんなイベントをやるのかとか、そういった情報発信をこちらのほうでお手伝いするような仕組みも作っていかねばいけないなと思っております。

また、小学校に向けて、そういった情報発信をしていって、子供たちの目につくところいろんなものを仕掛けていきたいと考えているところでございます。

○脇谷委員 子供たちが、これはおもしろいと思うような仕掛けを、例えば、フェンシングでは、ちょっと先にあたったらピーンと音が鳴るような仕掛けを手作りしていらっしゃって、よく作っていらっしゃるなと思いました。子供たちにおもしろいと思ってもらえるような、入口の段階を少し工夫していただきたいなと思います。協会の皆様方を集めて、もうちょっと意識のレベルを高めていただきたいなと思っております。よろしく申し上げます。

○星原委員 それぞれ説明いただいたんですけども、私から見ると、競技力向上と言うけれども、今年は鹿児島大会なかったわけですけども、国民スポーツ大会は毎年行われているわけですから、どの部分が弱くてどの部分を強化すべきかということは、分かっているはずなんですよね。

大事なのは、その部分の強化が実際できてい

るのか、できていないのかということですね。競技団体の人たちとのいろんな意見交換の中で、何が不足しているのか——指導者が不足しているのか、予算的なものが少なく、なかなかそこまでいかないのか。あるいは、県内に指導する、そういう能力を持った子供たちを発掘というか、見つけていく作業がどうなのか。そのあたりで、競技団体と、皆さん方との間に乖離はないのかどうか。その辺はどうなんですか。

○押川スポーツ振興課長 各競技団体におきましては、2026年予定でしたけれども、宮崎での国民スポーツ大会に向けた強化計画や年次的な強化策等も作っていただいて、それに基づいて現在、強化練習会等も行っていただいております。

ただ、実際に、その思いが指導者一人一人、選手一人一人まで伝わっているかどうかというところにつきましては、そのとおりですとはなかなか申し上げられない競技もあるかと思っておりますので、そういったところをしっかりと、各競技団体と話をさせていただきながら詰めていきたいと思っております。

指導者、選手まで思いを一つにしていく、目標を一つにしっかりと持つということが一番重要だと思いますので、そこをしっかりと図っていきたいと考えております。

○星原委員 スポーツ少年団の指導者と付き合いがありますので見てみますと、スポーツ少年団の指導者は、大会に向けて勝っていかないと、指導者の能力がないみたいに周りから見られたりするものですから、どうしても大会で勝つことに主眼を置いているような気がするんですけども、本当は小学校時代に大事なのは基礎体力の部分はどうするかなんですよ。

スポーツによっては、肩、肘、足、いろんな

ところを、小学校時代に壊す子供たちが結構出ているんですよ。この宮崎国スポのためだけじゃなくて日常の中で、健康な体で好きなスポーツがずっと生涯できるようになるためには、小学校時代に体壊しちゃったら、もう意味がないんですよ。

ですから、高校の指導者、中学校の指導者と、スポーツ少年団なんかの小学校の指導者とが、連携をとれるような、基礎的なものを作って、そして、年に何回か研修会でもやって、間違った指導をしていることがあれば、正していかないといけないわけです。高校の指導者なんかは、かなり経験があると思うんですが、小学校の指導者は、父兄がやったり、どちらかというとその道の経験が少ない人がやったりしているスポーツもあるものですから、専門でないといけないスポーツもあるんですけども、そうなっていると、間違った指導で肩、肘、膝、いろんなところを壊してしまって、せっかくの能力を持った子供たちがつぶれてしまう、という可能性も結構見ているんですよ。

ですから、国スポに向けた競技力向上だけではなく、子供たちがスポーツを一生続けていけるように、そういうことにならないためのことも、一方でやっておかないといけないんじゃないかなと思っていますよ。

あと、私は毎年小学校を何校か回って、校長先生たちと話をしているんですけども、学校によっても、対応の仕方、考え方が少しずつ違うところも出ていますし、生徒数が少なくなってきたら、1校単位でできなくて、何校か集めて指導する種目もあるわけですよ。

そういったいろんな問題があるので、指導者と学校の先生方との連携もきちっとやってもらう、といったことがちゃんと下りていっていな

いと、どうなのかなという気がするところあるんですよ。

私から見ると、指導者の人たちは、家庭を犠牲にして、土日もつぶれて、一生懸命、子供たちのためにやっている姿を見ていると、大変だなと思うんですけども、一方では、その子供たちがスポーツを通じて社会人になるまでに、いろんなことがあるんで、まず体を壊さない、どこかを使えなくなる形形の指導に、基本的には持って行ってほしいなと思うんですが、そういう指導の仕方は下ろしてあるんですかね。

○押川スポーツ振興課長 スポーツ少年団の指導者につきましては、県のスポーツ協会が集団の講習会等を行っております。そこでは、スポーツ少年団の憲章の中にあります規定に基づいて活動等を行ってほしいということは、きちんと伝えてはあります。しかし、実際、そこがしっかりと浸透しているかは、十分ではないというのが事実だと感じております。

そういったところも含めまして、子供たちをしっかりと育てながら、中学校、高校につないでいくことが重要なポイントなんだというところを、私たちもスポーツ協会とともに伝えていきたいと思っております。

ただ、今、委員がおっしゃったように、各スポーツ少年団の大会等も多数ございます。九州レベルではなくて、全国レベルの大会まであったりするものですから、どうしてもそこで勝つということが目標になってしまつて過度の練習になってしまつたりということもございます。

ですが、子供たちをまず大切にしながらというところを私たちはしっかりと伝えてまいりたいと考えております。

○星原委員 最後にしますけれども、2027年の宮崎国スポに対して、この指導者数というのが、

8ページの一番右のほうにあるんですが、この指導者数というのは、この人数で、その目標に向けて達成されるのか。やはりまだ、指導者がもう少し外部からでも、あるいは内部で育てていかないと足りない状況なのか。その辺はどうなんだろうかなと思ったんですが。

○押川スポーツ振興課長 また、そのあたりにつきましては、各競技団体としっかりと話し合いをしながら、必要であれば、こういった形で本県として採用できるのかといったところも含めて話し合いをさせていただければと考えております。

○星原委員 目標達成に向けて、ぜひ頑張りたいと思います。よろしく願いしておきます。

○日隈教育長 今、各委員の先生方からいろいろ意見いただいたんですけども、国スポが終わった後も、健康増進のことも含めてスポーツを続けていかなくちやいけない、ということがあるんですが、まずは、2027宮崎国体で天皇杯という目標もありますので、先ほどからお話もあつたとおり、戦略的に取り組む必要があるという課題が一つあります。

例えば、今年は国体なかったんですけども、昨年の茨城国体で見ましても、例えば、陸上競技では、本県は100m×4のリレーで見事優勝しましたが、参加点10点を合わせた点数は41点です。陸上でトップの県が118点ですので、余り差がございません。一方、未普及競技では、例えば、ホッケーでは、本県は参加点の10点のみですが、100点を超えている県が4県ありまして、トップは200点を超えています。

こういった競技は、ぜひねらっていかなくてはいけないということで、先ほど未普及競技で上げておりましたけれども、強化を行ってまい

ります。そのためには指導者が必要だということで、星原委員から御意見いただいたところだと思います。

指導者の関係や、アスリートも含めてですけれども、前回の宮崎国体のころは、私ども県教育委員会の教職員、県庁職員、市町村職員だけでなく、それ以外にも、県関係だけでも外郭団体が結構あったのですが、この四、五十年の間に、公社等改革でほとんどそういう受け皿もなくなっておりますので、公務部門と、民間部門と一緒に、アスリートも指導者も確保していかなくちゃいけないのかなと考えています。

私ども教育委員会も特に所管していますので、昨年も私も日本体育大学に行きまして、理事長の松浪健四郎さん、学長で体操の金メダリストの具志堅幸司さんとお会いしまして、相撲のキャプテンに、宮崎県に入っていたところでした。ただ一方、この私ども県教育委員会が採用しますのは、あくまでも先生としての採用ですので、指導の資質も求められますので、なかなか厳しいところもございます。そこのところもしっかりやってくれと、本人にも面接して、入ってから指導を徹底しながら、教員であるというところも求めていかなくてははいけません、非常に厳しいながらも何とか確保を目指していきたいとは思っております。

天皇杯を目指すという方向性の問題と、もう一つは、そのためのプレーヤーと指導者、この確保については、全県挙げて取り組んでいく必要があると思いますし、我々もしっかり頑張っていきたいと思っております。

また、委員の皆様方も地域でいろんな企業も含めて、お声がけいただくとありがたいなと思っております。

ソフトボール女子では、例えば、野崎漬物さ

んがチームを作っていたとか、いろんな動きも出てきております。私どもも働きかけもしておりますけれども、もっともっと民間ベースでも頑張っていたかかないと、なかなか公務部門だけじゃ難しいのかなというのがあります。今後の取組をまた強化していきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

○日高博之委員 育成関係は先ほど教育長が言われたので、もう質問はやめます。

ただ、一つだけ確認なんです、小学校、中学校でアスリートの養成のプログラムとかやっていますが、高校について、もちろん県の所管は県立高校でしょうけれども、私立学校はどうなっているのかな。

宮崎県の方針として、教育委員会は、県立高校のみを強化していくんですかね。

○押川スポーツ振興課長 高校の強化につきましては、強化指定校を県教育委員会として指定しておりますけれども、これには私立の高校も入っております。また、各競技団体に登録をしなければ大会等には出れないため、私立高校も県の競技団体に所属していますので、国体強化に向けた思いについては、私立高校も同じ思いで取り組んでいただいていると考えているところでございます。

○日高博之委員 県教育委員会としては、自分の所管の県立高校のみのデータしかないということですかね。未普及競技の指導者を見ると、全部県立高校で、私立は全然出ていないです。

○押川スポーツ振興課長 主な指導者の中には、県立高校しか出ていないような状況ですが、私立高校では未普及競技の強化に取り組んでいただいている学校がなかなか少のうございます。ただ、なぎなた競技あたりは、聖心ウルスラ学園高校が、強化に取り組んでいただいていると

いう状況もございます。そういった意味からも、私立の高校ともしっかりと手を携えながら、強化を進めていきたいと考えております。

○日高博之委員 日章学園はトレーニング場がすごかったんですね。ほかに、延岡学園は、サッカー場をつくっていたり、宮崎日大高校もいいグラウンドがあるという話も聞いています。日南学園は、そんなに設備は大したことない。

やっぱり、そういった設備があるんだから、もっと指導者も含めた私学との横の連携を——県立と違って、私学は生徒を集めればやりやすいんでよね。自分の株式会社みたいなものだから。競技のトップの人を呼んできたりとかもできるわけですから。だから、そこら辺が、いつも県立ばかり増えて、私学が——未普及競技もやらせりゃいいんです、やってくれて言えば、日隈教育長が言えばやるでしょう。だから、そういうのも含めて、もっとその辺の努力も、教育長が自ら私学に出向いて言うことになると思いますね、将来的に。

○日隈教育長 貴重な御意見ですので、私立学校のほうにもまたお話したいと思います。ただ、私立学校の場合は、生徒募集の関係で、人気スポーツを中心に、県外からも生徒を確保されている状況であるのも事実です。

昨年度も、私、京都に行きまして、宮崎日大高校の駅伝監督と話をしましたけれども、いい監督さんです。日清食品でトップランナーだった人が、今は宮崎日大高校の監督をされているんですが、すごく選手を押し上げていくのが上手なんですね。本当は、小林高校の応援をしなくちゃいけないんだけど、すばらしい指導者だと思いました。そういう指導者がいると、県外からも選手が入ってくることもあるみたいです。そのところは、私立学校では経営上の

問題の部分はあると思いますけれども、スポーツのこの指定校等については、公立、私立、関係なく、私どものほうは補助金を出しながら指定して強化を図ってまいりますので、私立高校ともいろんな協議をしていきたいと思います。

○日高博之委員 期待しています。

○窪菌委員長 ほかはございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○窪菌委員長 それでは、ないようですので、これで終わりたいと思いますが、よろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○窪菌委員長 執行部の皆さん方には、御退席いただきまして結構でございます。大変ありがとうございました。お疲れさまでございました。暫時休憩します。

午前11時19分休憩

午前11時20分再開

○窪菌委員長 それでは、委員会を再開いたします。

協議に入ります。

まず、協議事項（1）の提言についてであります。

県内調査も終了しましたので、これからは年度末の報告書の作成に向けて、県当局や国に対し、どのような提言や働きかけができるかを整理していかなければなりません。

これまでの委員会活動の経過につきましては、配付しておりますA3版の資料を御覧ください。資料は2枚ございます。

これを踏まえて、報告書に盛り込む提言や内容について御意見等を頂きたいと思いますが、本当に数多くの意見や現地調査がございましたので、資料を持ち帰りの上、ゆっくり見ていた

だきたいと思います。

今回の委員会で皆さんから意見を出していただきまして、報告書の内容や提案等を考えたいと思いますけれども、そういう方法でよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○窪菌委員長 それでは、そのようにさせていただきます。

正副委員長で報告書骨子（案）を作成し、今回の委員会で提案したいと考えておりますが、今回の委員会までに御意見等がある委員がいらっしゃいましたら、随時正副委員長のほうへお申出くださいますようよろしくお願いいたします。

次に、協議事項（2）でございます。

次回委員会についてであります。次回委員会につきましては、1月22日金曜日に開催を予定しております。今回の委員会では、報告書に向けた検討を行いますが、ほかに執行部から説明を受けたい事項などがあれば、御意見をいただきたいと思いますと思いますが、いかがでしょうか。ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○窪菌委員長 特にないようでございますので、今回の委員会の内容につきましては、正副委員長に御一任いただきたいと思いますと存じますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○窪菌委員長 それでは、そのような形で準備させていただきたいと思います。

最後に、協議事項（3）ですね。その他、委員の皆さん方から何かございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○窪菌委員長 ないということでございますので、今回の委員会は1月22日午前10時から予定

しておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、以上、本日の委員会を閉会いたします。御苦労さまでございました。お疲れさまでした。

午前11時23分閉会

署 名

スポーツ振興対策特別委員会委員長 窪 菌 辰 也

